

令和6年6月27日 第10回 木曽川下流水防災協議会

線状降水帯による大雨について 半日程度前から**府県単位**での呼びかけ

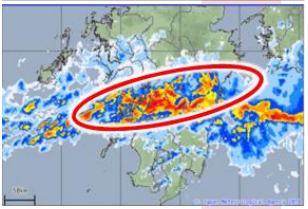
名古屋地方気象台、岐阜地方気象台、津地方気象台

線状降水帯の予測精度向上に向けた取組（情報の改善）

観測や予測の強化の成果を順次反映し、令和4年6月より、線状降水帯による大雨の可能性の半日程度前からの呼びかけを、令和5年5月より、「顕著な大雨に関する気象情報」（線状降水帯の発生をお知らせする情報）をこれまでより最大30分程度前倒して発表する運用を開始。
令和6年5月28日からは、令和4年度から開始した半日程度前からの呼びかけを府県単位で実施。

線状降水帯による大雨の可能性をお伝え

令和3(2021)年
 線状降水帯の発生をお知らせする情報
 (令和3年6月提供開始)



線状降水帯の雨域を楕円で表示

「明るいうちから早めの避難」… 段階的に対象地域を狭めていく

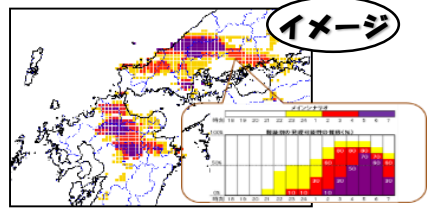
令和4(2022)年～
 広域で半日前から予測
 (令和4年6月提供開始)

今年度の新たな運用
 令和6(2024)年～
府県単位で半日前から予測

次期静止気象衛星
 (令和11年度運用開始予定)



令和11(2029)年～
 市町村単位で危険度の把握が可能な危険度分布形式の情報を半日前から提供



令和5(2023)年～
 最大30分程度前倒して発表
 (令和5年5月提供開始)

令和8(2026)年～
 2～3時間前を目標に発表

線状降水帯の雨域を表示

「迫りくる危険から直ちに避難」… 段階的に情報の発表を早めていく

※具体的な情報発信のあり方や避難計画等への活用方法について、情報の精度を踏まえつつ有識者等の意見を踏まえ検討

国民ひとりひとりに危機感を伝え、防災対応につなげていく

令和6年から開始する府県単位での呼びかけ（地方／府県気象情報）



大雨に関する**東海地方**気象情報 第〇号
〇年〇月〇日〇〇時〇〇分 名古屋地方気象台発表

<見出し>

東海地方では、〇日夜には、線状降水帯が発生して大雨災害発生
の危険度が急激に高まる可能性があります。

<本文>

…（中略）…

大雨に関する**東海地方**気象情報 第〇号
〇年〇月〇日〇〇時〇〇分 名古屋地方気象台発表

<見出し>

愛知県では、〇日夜には、線状降水帯が発生して大雨災害発生
の危険度が急激に高まる可能性があります。

<本文>

…（中略）…

府県気象情報

対象とならない岐阜県、三重県、静岡県では、
府県気象情報における呼びかけをしない。

大雨に関する**愛知県**気象情報 第〇号
〇年〇月〇日〇〇時〇〇分 名古屋地方気象台発表

<見出し>

東海地方では、〇日夜には、線状降水帯が発生して大雨災害発生
の危険度が急激に高まる可能性があります。

<本文>

…（中略）…

大雨に関する**愛知県**気象情報 第〇号
〇年〇月〇日〇〇時〇〇分 名古屋地方気象台発表

<見出し>

愛知県では、〇日夜には、線状降水帯が発生して大雨災害発生
の危険度が急激に高まる可能性があります。

<本文>

…（中略）…

※北海道や沖縄県では、府県予報区単位で発表します。

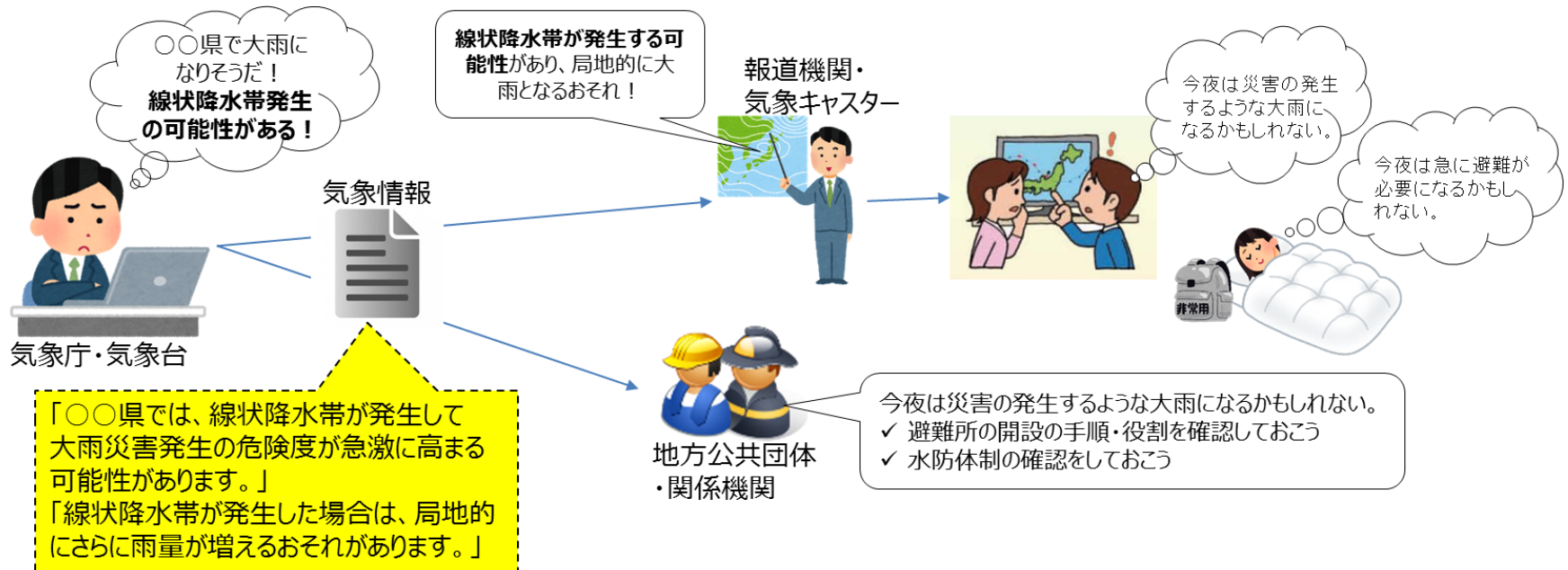
※鹿児島県では奄美地方を、東京都では伊豆諸島と小笠原諸島を区別して発表します。

※発表する情報の電文フォーマットは変わりません。

呼びかけが行われた時の対応例

府県単位で呼びかけを行いますが、
これまでと対応を変える必要はありません。

- 線状降水帯が発生すると、大雨災害発生の危険度が急激に高まることがあるため、心構えを一段高めていただくことを目的としています。この呼びかけだけで避難を促すわけではなく、ほかの大雨に関する情報と合わせてご活用ください。
- **市町村**の防災担当の皆さまには、避難所開設の手順や水防体制の確認等、災害に備えていただくことが考えられます。
- **住民**の方々には、大雨災害に対する危機感を早めにもっていただき、ハザードマップや避難所・避難経路の確認等を行っていただくことが考えられます。



線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけや「顕著な大雨に関する気象情報」といった線状降水帯に関する情報だけでなく、**大雨警報やキキクル（危険度分布）等、段階的に発表する防災気象情報全体を適切に活用することが重要**です。

5段階の警戒レベルと防災気象情報

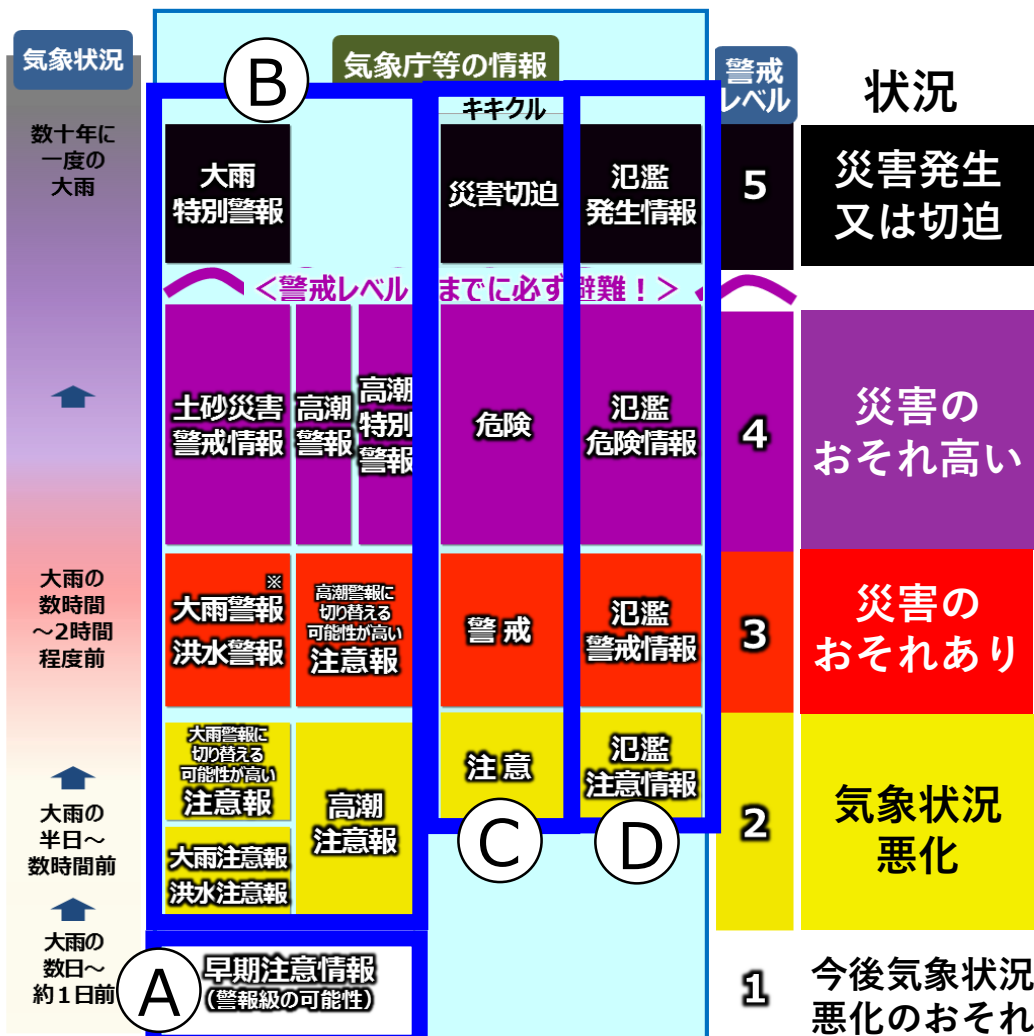
気象状況	気象庁等の情報			市町村の対応		住民がとるべき行動	警戒レベル	
数十年に一度の大雨	大雨特別警報	災害切迫	氾濫発生情報	緊急安全確保 ※必ず発令される情報ではない		命の危険 直ちに安全確保! ・すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。しまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。	5	
	<警戒レベル4までに必ず避難!>							
	土砂災害警戒情報	高潮警報	高潮特別警報	危険	氾濫危険情報	避難指示 第4次防災体制 (災害対策本部設置)	危険な場所から全員避難 ・台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。	4
大雨の数時間～2時間程度前	大雨警報 ※ 洪水警報	高潮警報に切り替える可能性が高い 注意報	警戒	氾濫警戒情報	高齢者等避難 第3次防災体制 (避難指示の発令を判断できる体制)	危険な場所から高齢者等は避難 ・高齢者等以外の人にも必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。	3	
大雨の半日～数時間前	大雨警報に切り替える可能性が高い 注意報	高潮注意報	注意	氾濫注意情報	第2次防災体制 (高齢者等避難の発令を判断できる体制)	自らの避難行動を確認 ・ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。	2	
大雨の数日～約1日前	大雨注意報 洪水注意報				第1次防災体制 (連絡要員を配置)	災害への心構えを高める	1	
	早期注意情報 (警報級の可能性)				・心構えを一段高める ・職員の連絡体制を確認			

※ 夜間～翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3(高齢者等避難)に相当します。

「避難情報に関するガイドライン」(内閣府)に基づき気象庁において作成

多様な防災気象情報

- 大きく分けると (A) ~ (D) の4種類
- 洪水害 (A) ~ (D)、土砂災害・雨水出水 (A) ~ (C)、高潮 (A) ~ (B) を活用可



防災気象情報の種類

- (A) 早期注意情報
(警報級の可能性)
- (B) 注意報・警報・特別警報
土砂災害警戒情報
- (C) キキクル (危険度分布)
- (D) 指定河川洪水予報

※ 夜間~翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3 (高齢者等)

③ キキクル (危険度分布)

対象リスク：洪水、土砂災害、雨水出水

気象状況

数十年に一度の大雨

大雨の数時間～2時間程度前

大雨の半日～数時間前

大雨の数日～約1日前

気象庁等の情報

キキクル

災害切迫 **氾濫発生情報**

危険 **氾濫危険情報**

警戒 **氾濫警戒情報**

注意 **氾濫注意情報**

③

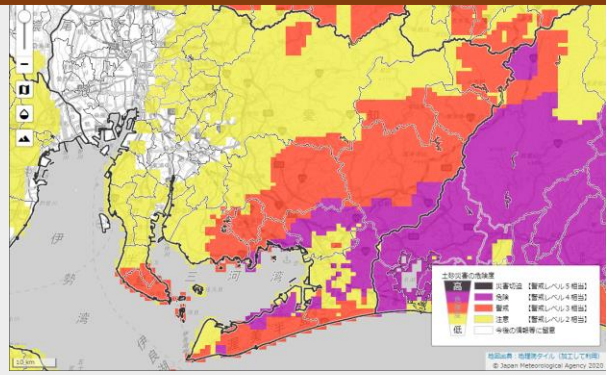
- ・洪水害、土砂災害、浸水害（雨水出水）の危険度の高まりを地図上に表示
- ・観測に基づく雨量の予測や過去の災害データを基に危険度を予測
- ・5段階に色分けして**1 kmごとに表示**。直近の観測を用いて**10分ごとに更新**。
- ・キキクルが示す危険度の予測期間
洪水害→3時間先まで、土砂災害→2時間先まで、浸水害→1時間先まで
- ・6時間前から現在までの履歴も見られる。

発表例 & 活用法

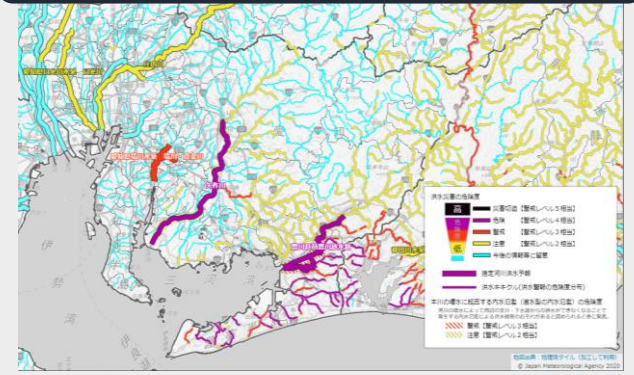
警報等③は自治体ごとに発表
 (自治体内の一部でも基準に達すると予想されたら発表)

警報・注意報が発表された際、
 居住施設等の周辺の危険度を
 確認できる

土砂災害：現在から2時間先まで



洪水害：現在から3時間先まで



浸水害：現在から1時間先まで

